附属病院

より良い医療の提供を目指して

1日平均の入院患者約740人、外来患者約1,790人、年間手術件数は約6,600件。
地域に根ざした先端医療を担う附属病院では、
臨床実習を主体とした高度で実践的な教育を提供し、研究を支えます。

札幌医科大学附属病院は、医学部と保健医療学部の教員・診療医の方々に支えられ、両学部学生の実習を主体とした臨床教育、大学院生や研究生および教員の臨床研究、卒業後の臨床研修、道民の皆様に対する安全で質の高い医療の提供という、重要な役割を果たしています。

医学部と保健医療学部看護学科の学生は附属病院内にある23の診療科や中央診療部門で、理学療法学科・作業療法学科の学生は主にリハビリテーション部で、それぞれ臨床実習を行っています。高度で実践的な臨床教育を目指し、全教員・職員が一丸となって努力しており、その結果は両学部の高い国家試験合格率にも反映されています。

道民の健康を守り、教育・研究を支える上で、質の高い安全な医療の提供は附属病院にとってもっとも大切な役割です。さらに最先端医療を確立し、高度な医療を臨床に導入することも重要な任務です。遺伝子治療、再生医療による脳梗塞治療、新規がん抗原による免疫療法、新外科手術方法、カテーテルや腹腔鏡／胸腔鏡による侵襲の少ない治療法など、多くの先端医療を実践しています。

臨床では患者さんを全人的な視点で診療し、病院を癒す場として位置づけ、優れた医療人の育成を目指し、現場の目線から学習・研修、研究を行っています。

附属病院長
塚本　泰司 つかもと　たいじ

「良質な医療人を育てることが本学の使命です。そのためには、質の高い臨床現場が必要不可欠です。大学で行う最先端の研究を臨床現場に還元し、より良い医療を患者さんに提供するのが附属病院の大きな役割です。

未来の医療人を目指す皆さんのモチベーションはさまざまでしょう。どんなモチベーションでも構いません。しかし、挫折したとき、そのモチベーションが自分を奮起させてくれるかどうかという点を大切にしてください。集約化や機械化することが難しい医療の仕事は「人」で成り立っています。本学で学びながら、自分の特性をよく理解し将来の専門へと活かしてください。附属病院はそんな皆さんの学ぶ意志を積極的にサポートします。」

附属病院

- 薬剤部
- 検査部
- 病理部
- 放射線部
- 手術部
- 医療材料部
- リハビリテーション部
- 救急集中治療部
- 医療安全推進部
- 感染制御部
- 高度救命救急センター
- 看護部
- 診療科
  - 第一内科
  - 第二内科
  - 第三内科
  - 第四内科
  - 神経内科
  - 第一外科
  - 第二外科
  - 整形外科
  - 脳神経外科
  - 婦人科
  - 産科周産期科
  - 小児科
  - 眼科
  - 皮膚科
  - 形成外科
  - 泌尿器科
  - 耳鼻咽喉科
  - 神経精神科
  - 放射線科
  - 麻酔科
  - 総合診療科
  - 歯科口腔外科
  - リハビリテーション科
- 臨床工学室
- 診療情報室
- 中央写真室
- 腫瘍診療センター
- 内視鏡センター
- 治験センター

リハビリテーション部

リハビリテーション部は、患者様が安心して生活の場に帰るためのチーム医療を行っています。専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等が状態に応じた最適のリハビリテーションを提供します。運動機能・高次脳機能・呼吸機能の障害、慢性的な痛みなどに幅広く対応し、また、小児から高齢者まで全年齢を対象とし、附属病院全診療科との協力体制を整えています。総合的な医学的アプローチと生活のサポートの両面からリハビリテーションの専門性を発展させ、更なる診療の質向上を目指します。

附属総合情報センター

附属総合情報センターは、2006年4月に、それまでの附属図書館と附属情報センターを統合し、新たな組織としてスタートしました。

当センターは、情報化時代への対応を積極的に取り入れるとともに、大学全体のネットワークシステムを支えるなど、大学における情報技術充実へ向け中心的な役割を果たしており、国内の医科系大学の中でも有数の施設となっています。さらに卒業後も最新の医学医療情報の提供を通し、地域における医療活動の支援を生涯に渡ってサポートする体制も整っています。

附属総合情報センターには、皆さんに快適な環境で勉強してもらい、一流の医療人に育ってほしいという願いが込められています。

3F 閲覧席

図書館部門

図書館は、基礎医学研究棟の2階から4階にかけて設置され、自然木の閲覧机や書架をはじめ、壁一面に広がった窓からは手稲山が望め、落ち着いた環境の中で学習することができます。また24時間利用でき、情報化社会にふさわしく情報検索用コンピュータや視聴覚機器が整備され、充実したネットワーク環境のもとで、皆さんの学習・研究を支援します。

情報システム部門

情報システム部門はIT化に即応した医学・保健医療学者、医療従事者の育成、学術研究のサポートとともに、北海道の地域医療への貢献と幅広い道民の要請に応えるよう努力しています。具体的には大学内の情報機器などの技術支援を始め、研究支援、教育支援、地域医療支援を中心に、日進月歩の高度情報化の中にある医療を通じて貢献していきます。

3F 学術雑誌書架

2F 情報検索コーナー

5F コンピュータ実習室

附属産学･地域連携センター

研究費獲得のためのレクチャー

附属産学・地域連携センターは、産学地域連携部門、寄附金部門、知的財産管理室の３つの部門からなる組織で、大学の研究成果を実用化するために研究者に対する様々な支援活動を行っています。

産学地域連携部門では、国・公的機関や企業からの研究費の受入・管理を行っています。研究費獲得のための公募情報の提供、申請書を作成するためのノウハウに関するレクチャー等を企画し、研究者の支援を行っています。また、道内外の企業や研究機関にネットワークを持つ産学官連携コーディネーターが中心となり、大学研究者の研究内容を国内外の研究者・研究機関に紹介し、研究成果を実用化につなげていく支援をしています。

寄附金部門では、大学や各講座への寄附金の受入や管理を行い、大学の医学教育・学術研究の発展・充実に役立てるように支援しております。

知的財産管理室では、大学研究者の研究成果の特許化を支援しています。特許取得に向けた研究戦略に関する相談や特許の出願、他大学・他機関との研究試料の受け渡しに必要な手続きを行っています。また、大学の教職員・学生との知的財産に関する情報交換の場として、知財スタッフが各研究室（カンファレンス等）へ訪問する活動（知財プラント）や知的財産教育講義などを行い、知的財産に関する意識啓発に努めています。

附属産学・地域連携センターでは、こうした取り組みを推進し、大学の持つ「知」を活用した社会貢献を進めています。

イノベーションジャパン2008大学見本市

附属がん研究所

3部門でがん細胞の特性研究に取り組む

「分子病理病態学部門」、「分子生物学部門」、「生化学部門」の 3 部門から成り立つ研究所です。
急速に進展する生命科学を医学教育に反映させるため、学部生の専門教育指導に加え、
大学院生や臨床医学講座の研究生を受け入れています。

分子病理病態学部門

肝臓の再生の研究を行っています。肝細胞の種（たね）に相当する幹細胞を使って、細胞が増殖し機能を発揮するにはどういう因子や環境が必要なのかを見つけ出し、体外で肝組織や人工肝臓を作る研究をしています。

分子生物学部門

ヒトのがん細胞で変化している、がん関連遺伝子の働きについて研究し、発がん機構の解明を目指しています。がんをはじめとする遺伝子疾患などの講義を通じて、医学に関わりの深い生命現象を分子レベルで解明しています。

生化学部門

脳の発生の研究をしています。脳は約１千億個の細胞よりできていますが、脳として機能するためには脳細胞同士が正確に連絡する必要があります。どういう遺伝子が必要なのかを見つけ、神経疾患や神経再生医療に役立つ研究をしています。

教育研究機器センター

世界的レベルの医学研究を支える、最先端の研究機器

先端レベルの研究を可能にする、最新の研究機器をラインナップ。
研究機器の共通利用はもちろん、基礎研究者と臨床研究者による活発な共同研究から
広く世界に貢献できる研究成果が期待されています。

札幌医科大学における研究の中核を担う施設です。さまざまな医療機器を効率的かつ積極的に共同利用し、基礎医学と臨床医学の研究者との間で医学情報の交換や共同研究の活性化を進めています。世界的レベルの最先端医学研究を支援するとともに、機器運用の利便性をより高めるため、ホームページ予約や機器使用のログなどを独自に開発したバイオリソースシステムを運用しています。

分子医学研究部門

難病に対する新しい治療法の開発を中心テーマとしています。遺伝子治療・再生医療などの研究を通じて、がんをはじめとした難病の本質的な治療法の発展へ大きな流れを形成していけるような研究室づくりを目指します。

分子機能解析部門

分子病態情報学を専攻する大学専攻科を併設した研究部門です。プロテオミクス技術を基盤に病態の診断・治療を目指した分子の同定と病態における意義の解明、新しい蛋白質科学を推進するシステム開発を行っています。

標本館

4万5000点を所蔵する札医大の財産

人体骨格標本をはじめ、解剖学・病理学・法医学の実物標本や貴重な古医書など
約4万5000点の標本・資料を所蔵する充実した内容の標本館。
情報発信の拠点として、日々の勉学や卒業後の知識習得に役立つ施設です。

昭和47年4月に発足した標本館は、館長ほか2名の専門職員を置き、4万5000点を超える標本を所蔵しています。標本や解説の電子情報化も整備され本学が全国に誇る施設です。

入学式終了後に行われるオリエンテーションの一環として標本館を見学します。新入生は実際の標本を観察し、人体の構造にふれ、病変の実物を見ることで、一段と目を輝かせます。この経験が医学への興味をさらに深め、今後の勉学への駆動力となることでしょう。

本学が早くから力を注いでいる世界への情報発信において、標本館や図書館の情報もまた発信されています。21世紀のデジタルコミュニティにおける地域貢献、社会貢献を考えるとき、膨大なコンテンツを所蔵する標本館の果たす役割はさらに大きくなるでしょう。

附属臨海医学研究所

海洋資源の医学への応用を研究

附属臨海医学研究所は、海洋資源を医学に応用しようというユニークな発想のもと、
昭和43年に利尻島に開設されました。毎年、学生たちは、夏に生物実験も行う
離島地域医療実習の場として、この施設を活用しています。

ウニ採卵実験

利尻島の周辺には対馬暖流が流れており、その一部は宗谷海峡に回り込み、オホーツクに達します。その暖流の影響のもと、海藻類をはじめホッケ、ソイ、ミズダコ、エゾバフンウニ、キタムラサキウニ、マナマコなど無尽蔵な海洋資源に恵まれています。これら海の生き物たちが培ってきたケミカルシグナルの巧妙さと、その織りなす不思議な世界を知ること、そして、その海洋生物の化学防御領域を医学に応用することを目的にした研究施設がこの附属臨海医学研究所です。成果の一つとしてウニ腸から糖脂質、コンブからアミノ酸および多糖類フコイダンの抽出に成功しています。

また、研究所のもう一つの役割は学生実習にあります。2000年より、臨海実習（自由選択）として学生希望者30名を3泊4日で受け入れてきました。実習では、ウニの後期発生等で軸形成の大切さを主眼に学んでいます。2008年度からは、夏季に保健医療学部学生との合同生物医療実習が行われております。

研究所から見た利尻山9月の風景

キャンパスライフ

医療人を志す仲間でつくる、かけがえのない絆

学部などの枠を超え、部活動やイベントなどに参加することで、
学問とはまた違った人間的成長が期待できます。
これもまた本学に脈々と受け継がれる伝統の一つといえます。

目指す職種は違っても、このキャンパスで学ぶのは、みんな医療人を志す仲間たち。大学行事や部活動などのさまざまな場面を通し、学生はひとつになります。医療系総合大学である札医大の特徴は、学部や学科、学年の枠を超えて、同じ医療人を目指す学生同志のつながりがとても深いこと。そこで育んだあたたかいつながりが大学生活を輝かせます。

6月に行われる大学祭をはじめとするイベントや部活動などを通じ、先輩から代々受け継がれている札医大の伝統は、後輩に対する面倒見がいいこと。現役医療人でもある先生たちをはじめ、先輩たちの生活や学びに対するアドバイスは、人間として、医療人を目指す者として大きく成長するきっかけを与えてくれています。

「みんなで刺激し合い、助け合いながら医療人を目指す」という意識や雰囲気を背景に、学生は有意義なキャンパスライフを送っています。

年間スケジュール

4 入学式（4月上旬）

新入生オリエンテーション（4月上～中旬）

5 大学祭（6月中旬）

札幌医科大学の学生ほか、大学周辺の地域住民や他大学の学生も広く参加する一大イベントです。「エーライフカフェ」を借り切って行うプレパーティー、医学関係をテーマに扱った「医学展」、芸能人を招いて盛り上がる「中夜祭」、チャリティーバザー、そのほかサークルや有志が開くさまざまな出店など、大学内は活気にあふれます。

7 東日本医科学生総合体育大会（7月下旬～8月上旬）

関東以北にある医科大学・大学医学部の学生によって開催される体育大会で、現在36校で構成されています。同じ医科大学生の集まりであるだけに単に競技の勝敗だけではなく、人間関係を深めるよい機会となっています。

8 オープンキャンパス（8月上旬）

本学への入学を希望される皆さんに、キャンパスを直接体験していただくため、オープンキャンパスを開催しています。内容については、入試概要説明、模擬講義、体験学習、施設見学などです。

9 解剖体慰霊式（9月上旬）

医学・医療の発展のために、本学に御遺体を捧げられた方々を供養する慰霊式です。御遺族の参列をいただき、大学関係者とともに御精霊の冥福をお祈りします。

10 体育祭（10月中旬）

体育祭は10月中旬に行われます。やや肌寒いシーズンですが、全学年の学生はもとより大学に勤務する教職員、大学に所属する医師・医療関係者が参加する大学全体のスポーツの祭典です。種目としてはバスケットボール、バレーボール、バドミントン、サッカー、野球、綱引きなど老若男女を問わず参加できる種目が多いのが特徴です。中でもメインイベントは、大学から程近い円山公園の敷地をコースにチームリレーを展開する「駅伝」です。最後の体育祭ということもあり、6年生が終始他を寄せ付けないパワーで勝負に臨む姿は体育祭の見物の一つです。

11 文化芸術祭（12月中旬）

文化芸術祭は毎年12月中旬に行われる、文化系の部活動が主体となったイベントです。札幌医科大学には、文科系の部活動が多彩に揃います。例えば、室内楽合奏団は演奏会を開いたり、映画研究部は最新の映画や名作を上映したり、ジャズ研究会はその自慢の演奏を披露したりと内容は盛りだくさんです。

12 1 2 卒業式（3月下旬） 3

施設

広がる憩いの場、熱い活躍の場

構内にはコンビニエンスストアやカフェなど便利で快適なショップがあり、
広く明るいラウンジはいつも学生たちでにぎわっています。
また、体育館やグランドは活発な部活動などの舞台となります。

●ラウンジ
木のぬくもりが感じられるインテリアのあるラウンジ。曲線的な構成でリラックスできる空間です。（附属総合情報センター内）

●グランド
新琴似にある広大なグランド。ラグビーやサッカーなど各種球技に対応しています。

●体育館
構内に位置する体育館。複数の競技が可能な広い空間を誇ります。

●スターバックス コーヒー
患者さんや職員などでいつもにぎわいます。（附属病院1F）

●丸善
医学はもちろん学習に必要な専門書を数多く取り揃えた書店です。（大学棟1F）

●ファミリーマート
コンビニエンスストアが構内にあります。（附属病院2F、大学棟1F）

●カフェテリア
学生や教員、附属病院職員、患者さんの憩いの場。（附属病院2F）

部活動

人間の幅を広げる、それぞれの舞台

医科大学でありながら本格的競技活動を展開している体育系。
積極的に社会貢献にも取り組む文化系。さまざまな部活動に参加することで
大切な人間関係を築くことができ、かけがえのない日々を積み重ねることができます。

札幌医科大学でのキャンパスライフを語る上で欠かすことができないのが、部活動です。札幌医科大学には、体育系と文化系の多くの部が活動しています。体育系は、医科大学の部活動とはいえども、決して同好会レベルにはなく、多くの競技種目において、北海道内で中堅から上位に位置しています。また、文化系の部活動では、室内楽合奏団と合唱部は附属病院で毎年クリスマスコンサートを行うなど、医療系大学らしい医療貢献、社会貢献の取り組みも行っています。各部には、医学部と保健医療学部の両学部から学生が参加しており、学部を越えた学生交流の場ともなっています。部活動の先輩やチームメートとは、卒業後も付き合いが継続します。部活動は、一生の友を得る貴重な機会です。

ぜひ、入学した後には部活動に参加してみませんか。

文化系

- ジャズ研究会
- POPS研究会
- UNIX NETWORK CLUB
- イリス会（美術部）
- 映画研究部
- 演劇部
- 混声合唱団うた部
- IFMSA（国際医学生連盟）
- 茶道部
- 室内楽合奏団
- 写真部
- 吹奏楽部
- 箏曲部

体育系

- 男子スケート部
- 空手道部
- 弓道部
- 剣道部
- 硬式庭球部
- 古伝武術研究会
- ゴルフ部
- サッカー部
- 山岳部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- アイスホッケー部
- 女子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- 水泳部
- スキー部
- スノーボード部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- ダンス部
- つり部
- 軟式テニス部
- 軟式野球部
- バドミントン部
- ラグビー部
- 陸上部
- ワンダーフォーゲル部

国際交流

世界へはばたく、第一歩はここから

これからの医療人にとって国際的視野を持つことは重要です。
留学プログラムを利用して、コミュニケーション能力の向上はもちろん、海外の医療事情を知り、
国際色豊かな学生たちとふれあうことから、多くの事を学ぶことができます。

学部学生を対象とした、カナダ・アルバータ大学（エドモントン市）での約３週間の語学研修を行っています。午前は英語の研修、午後は基礎医学英語の研修や医療関係施設見学などに参加します。宿泊はホームステイです。期間中、２泊３日のカナディアンロッキーツアーも行われますので、カナダの大自然を満喫することができます。

また、最終日の試験の結果を参考として、英語の単位振替が行われます。この研修では語学力の向上だけでなく、外国の人々と触れあい、異文化を経験することにより、国際的な視野を持った医学・保健医療の担い手として、貴重な体験ができる内容となっています。

＜平成21年度／研修内容＞
●日程
8/2～8/23（研修期間：8/4～8/21）
●募集人数
両学部全学年対象　17人程度
●費用
約42万円（後援会から一部助成有）
※為替レート、航空運賃等の変動により増減する場合があります。

Q&A

札幌医科大学に関するいくつかの質問

Q 面接試験はありますか?
A 医学部および保健医療学部の一般選抜（前期日程）、推薦選抜ともに面接があります。

Q 多浪や社会人経験者は、入学者選抜合否判定で不利となるという話を聞きました。本当ですか?
A それはありません。年齢や経験で合否判定に差をつけることはしていません。「多浪」や「社会人経験者」であるかどうかよりも、明確な目的意識をもって志願し、合格に必要な学力を身につけたうえで受験することが重要なことです。

Q 追加合格となることはありますか?
A 合格者の発表後、入学辞退者が出た場合は、後期日程の入学手続期間終了後に、合格者の追加を行う場合があります。

Q 色覚異常がある場合は入学できますか?
A 入学の制限はありません。なお、身体の障害などのために修学上の配慮を必要とする可能性のある者は、「学生募集要項」に明記のとおり、出願に先立って事前に相談してください。

Q 食堂や書店はありますか?
A 学内には書店及びコンビニエンスストアがあります。また、附属病院には食堂、コンビニエンスストア、コーヒーショップ、カフェテリア、理・美容室があり、学生も利用できます。

Q 入学金や授業料の金額はいくらですか?
いつ払うことになりますか?
A 平成21年度入学者では、入学料が28万2千円、授業料が年額53万5千8百円です。入学料は、合格者発表後の入学手続期間内に納入します。授業料は、4月と10月の2期に分けて納入します。

Q 寄付金の徴収はありますか?
A 寄付金はありませんが、入学者の保護者の方には特別の事情がなければ「札幌医科大学後援会」に加入していただいています。会費（加入時払い）は、医学部で20万円、保健医療学部で10万円です。

Q 教科書代はどのくらいかかりますか?
A どのような教科書が指定されるかは、授業科目によって異なりますが、医学部の場合初年度約5万円、保健医療学部は約8万円です。

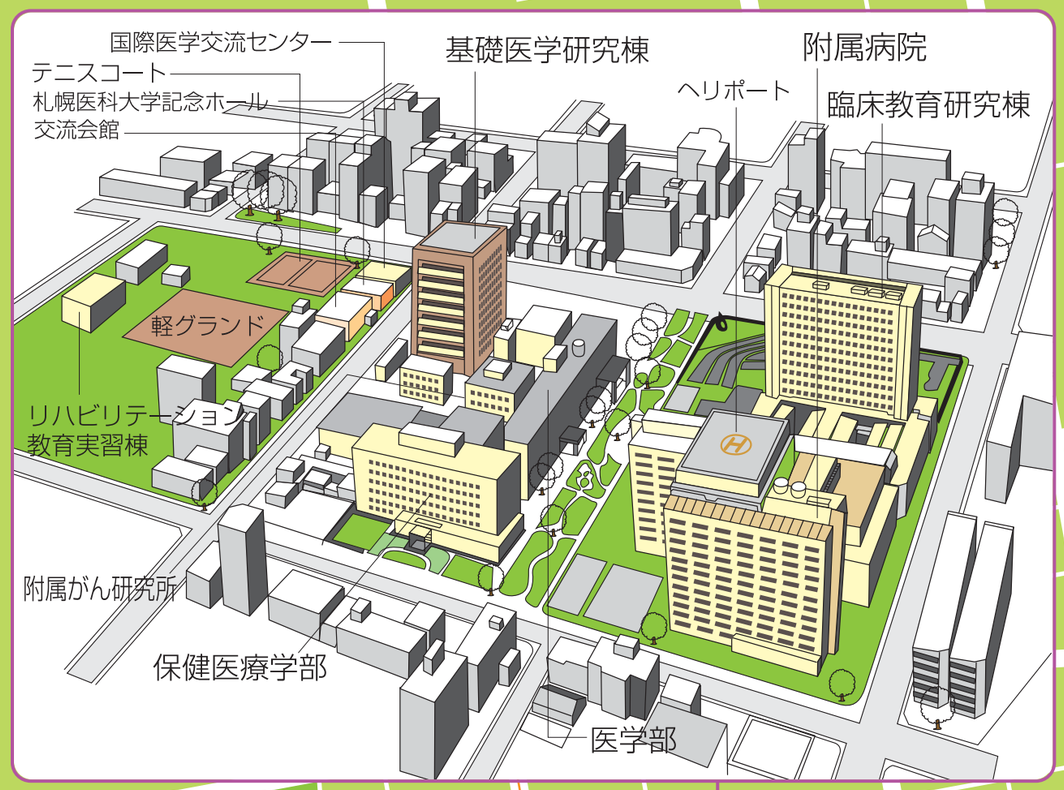
Q 奨学金はありますか?
A 札幌医科大学独自の奨学金はありません。よく利用されるものとしては、日本学生支援機構（以前の日本育英会）の奨学金制度があります。また、医学部の特別推薦選抜による入学者全員を対象として、卒業後の一定期間、地域での医療機関に勤務することを条件に北海道から奨学金が貸与されます。なお、真にやむを得ない理由のため学費の納入が極めて困難な学生に対して、授業料の減免および分納ができる制度があります。ただし、入学した年度の前期分授業料はその対象になりません。

Q 実習費はどのくらいかかりますか?
A 解剖実習で自分が使うメスやピンセットの器具、臨床実習で使う聴診器等は、個人で購入することになります。実習で大学の外にある施設に配置された場合の宿泊費や交通費は原則として自己負担ですが、後援会などから補助が出る場合もあります。

Q 実習中に発生した事故に対応する保険はありますか?
A 学生が正課中、学校行事中、課外活動中、通学中などに災害事故により傷害を被った場合の補償制度（学生教育研究災害傷害保険制度）があります。本学では、入学時に新入生全員を後援会で一括加入させています。また、臨床実習中の各種感染事故や実習相手方等への事故の発生に対応するため、臨床実習保険に加入してもらうこととしています。

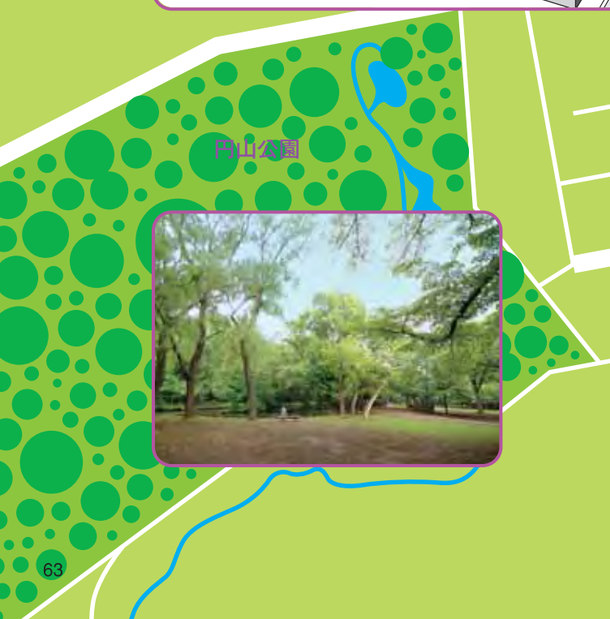
Q 寮はありますか?
A 男女共寮の学生寮「望嶽寮」が設置されています（収容人員50名）。大学からほど近い場所にあり、居室は1室2名で25室を有します。独自の良い伝統を保ち、日常生活は寮生の良識と責任に基づいて自主的に運営されています。寮費は月額1万2千6百円（食費・光熱費等の寮内経費別）です。

MAP



都市機能と自然が調和する快適なエリア

地下鉄東西線西18丁目駅まで徒歩3分。札幌中心部の大通公園も至近距離にあります。
近隣にはカフェやレストランが建ち並ぶ裏参道、美術館やギャラリー、さらに緑豊かな円山公園も。
都市機能と自然が調和する札幌でも人気の高いエリアで、快適な学生生活が過ごせます。



心で人にふれる人間性豊かな医療人を育てます

学長
今井　浩三 いまい　こうぞう

北海道公立大学法人 札幌医科大学は約60年の歴史の中で約7,000人の医療人を輩出し、北海道の地域医療に貢献してきました。

一方で近年医療を取り巻く環境は大きく変化し医師不足や地域医療の崩壊、さらに医療事故、医療倫理問題など多くの課題が横たわっています。本学は、これらの課題を先取りし、医学概論、あるいは保健医療総論という講義や、本学が全国に誇れる「地域密着型チーム医療実習」等を通して、医療安全や医療倫理を習得できるカリキュラムを組み、さらに卒後教育も含めてこれらの課題に真摯に対応し得る、「生命の尊厳に対する畏敬と高い倫理感を有する医療人の育成」を行っております。

また先進医療の研究として本学が特に力を入れている「がん」「再生医療」「スポーツ医学」の3分野は学外からの注目度も高く、一歩進んだ医療環境が整っています。これからの医療人には、高度な知識と技術にとどまらず、多様な医療現場に対応できるコミュニケーション能力が重要です。

広く人のために尽くすという高い志をもった皆さんの入学を心待ちにしています。

●本学のシンボルマーク

「だ円」（枠組み）は宇宙の調和、「1945」は本学の創基年、「七光星」は北海道の象徴、「羽」は発展と飛躍、「柏の葉」は英知と質実、「ヘビと杖」は医学のシンボル、アスクレピオスの杖を、それぞれ表現しています。

札幌医科大学の歩み

昭和25年、札幌医科大学開学
第二次世界大戦後の学校教育法の大改革により、北海道女子医学専門学校が廃止され、昭和25年に札幌医科大学が単科大学として開学した。

開学記念日の制定
昭和25年6月25日、札幌医科大学開学式が挙行された。大野初代学長は、本学の使命と建学の精神は医学の進歩発展に寄与することは勿論、北海道における保健医療を担う優秀な医師の養成を目的としており、本学の使命は重大であると述べた。

附属研究機関を設置
昭和27年、わが国初の公立のがん研究施設として癌研究室開設。昭和30年に附属がん研究所に変更。
昭和43年、利尻島の附属臨海医学研究所を設置。

大学院医学研究科を開設
昭和31年4月、大学院が設置され、ますます充実した研究が行われるようになった。

附属図書館の開設と発展
昭和31年図書館新築工事が竣工。

保健医療学部を開設、総合医科大学へ
平成5年、保健医療を取り巻く環境の変化に対応し、社会的要請や道民の期待に応えるため、衛生短期大学部を移行させ、看護学科、理学療法学科及び作業療法学科の3学科で保健医療学部を開設。

保健医療学研究科を開設
平成10年4月、看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻の二専攻の研究科を開設。
平成12年4月、理学療法学・作業療法学専攻に博士課程を設置。
平成18年4月、看護学専攻に博士課程を設置。

医学研究の拠点となる基礎医学研究棟完成
平成11年3月、附属図書館、情報センター及び教育研究機器センターを組み込んだ基礎医学研究棟が完成。

医学部附属病院から大学附属病院へ
平成16年4月、保健医療学部も参加した病院機能の強化。

附属産学・地域連携センター開設
平成18年4月、企画課より独立して開設。

附属総合情報センター開設
平成18年4月、基礎医学研究棟に附属図書館と附属情報センターを統合した附属総合情報センターを開設。

北海道公立大学法人札幌医科大学へ
平成19年4月、公立大学法人に移行。

特別推薦選抜制度の創設
平成20年、医学部に卒業後の一定期間、地域医療に従事することを条件とした特別推薦選抜制度を創設。（医学部入学定員100人→105人へ増員）

医療人育成センター開設
平成20年10月、人間性豊かな医療人の育成を目的として開設。

医学部入学定員の更なる増員
平成21年4月、医学部入学定員を105人→110人へ増員